

森林

市の北部には、100ha以上の森林が見られます。

茨木市の森林は、アカマツやコナラからなる雑木林の割合が高いのが特徴です。雑木林には、ササユリなど明るい林を好む特有の動植物が見られます。

また、ニホンリスやテンが生息していくためには、まとまった森林を保全していくことが重要です。



ニホンリス (ネズミ目リス科)

- 識別難易度 ★
- 観察難易度 ★★★
- 観察適期 春 夏 秋 冬
- 特徴

40cmほどの大きさ。背中は褐色で、腹は白い。リスが食べた松ぼっくりはエビフライのように見える。

■ 生息環境

マツ林などに生息し、樹上を動き回る。林道や林床に、松ぼっくりを食べた跡が散らばっているのを目にすることがある。



ササユリ (ユリ目ユリ科)

- 識別難易度 ★
- 観察難易度 ★★★
- 観察適期 春 夏 秋 冬
- 特徴

花は、6～7月に咲く。淡いピンク色で直径10～15cmと大きい。葉はその名の通り、ササの葉に似ている。

■ 生育環境

落葉広葉樹林の林床や林の縁に見られる。遷移が進み、林内が暗くなると見られなくなる。



シュンラン(キジカクシ目ラン科)

- 識別難易度 ★
- 観察難易度 ★★★
- 観察適期 春 夏 秋 冬
- 特徴

花は、3～4月に咲く。淡い黄緑色で5cmほど。葉は深緑色で細長い。その名の通り、春を告げる花。

■ 生育環境

落葉広葉樹林の明るい林床で見られる。遷移が進み、林内が暗くなると見られなくなる。

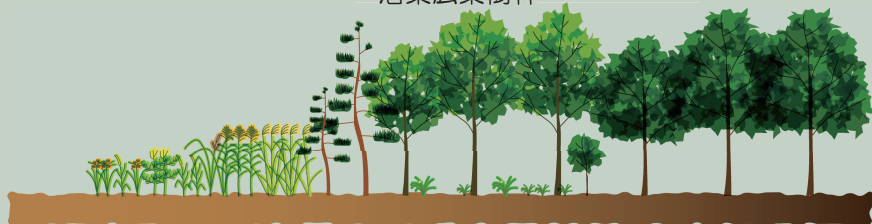
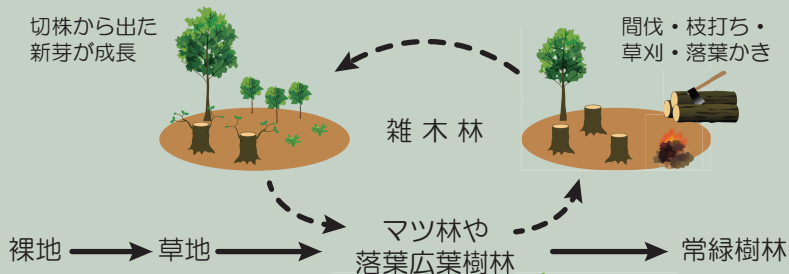


雑木林～人によって守られてきた自然～

なにも生えてない裸地には、まず草が生え、やがて木が生え、長い年月を経て森林を形成していきます。このような植生の変化のことを「遷移（せんい）」といいます。

雑木林は、人が薪炭林として定期的に伐採を行うことで遷移の進行を止め、遷移途中の明るい林が維持されてきたものです。このような明るい林には、そのような環境を好む特有の動植物が多く見られます。

しかし、今日、人が雑木林の管理をしなくなったことで遷移が進行し、徐々に暗い林に変化しつつあります。これにより、もともと雑木林で見られた多くの生きものが絶滅の危機に瀕しています。





キビタキ(スズメ目ヒタキ科)

- 識別難易度 ★
- 観察難易度 ★★
- 観察適期 春 夏 秋 冬
- 特徴

スズメほどの大きさ。雄は、黒と黄色の鮮やかな配色をしている。黄色い眉のような斑がある。

■ 生息環境

春に南から渡ってきて、樹洞や木の裂け目などで巣を作る。繁殖には落葉広葉樹林を好む。



アオゲラ(キツツキ目キツツキ科)

- 識別難易度 ★
- 観察難易度 ★★
- 観察適期 春 夏 秋 冬
- 特徴

ムクドリより少し大きいキツツキ。翼や背中が緑色で、後頭部は赤い。腹には黒い模様がある。

■ 生息環境

平地から山地の林に生息し、主に昆虫類を食べる。生木の太木に巣穴を掘る。



オオムラサキ(チョウ目タテハチョウ科) 国府

- 識別難易度 ★
- 観察難易度 ★★
- 観察適期 春 夏 秋 冬
- 特徴

10cmを越える大型のチョウ。はねの表面は、オスは青紫色、メスは茶色に白の斑点。はねの裏面は白っぽい。

■ 生息環境

成虫はクヌギやコナラなどの樹液に集まり、幼虫はエノキ類の葉を食べる。人の手の入った規模の大きい雑木林を好む。





ミヤマクワガタ(コウチュウ目クワガタムシ科)

- 識別難易度 ★★
- 観察難易度 ★★
- 観察適期 春 夏 秋 冬
- 特徴

オスは約3～7cm。メスは約2～5cm。オスの頭部は盛り上がっている。表面には金色～褐色の毛が生えている。



■ 生息環境

涼しい環境を好み、山地のコナラやクヌギなどの樹液に集まる。昼間にも活動する。

キツツキが生態系を支える！～キーストーン種～

キーストーン種とは、その地域に生息する生きものや生態系に及ぼす影響が大きい種のことをいいます。石橋の真ん中にある石のように、その石を失うと橋が崩れてしまうような要(となる)石の役割を果たしています。

例えば、キツツキは木の幹に穴を掘り、巣として利用します。キツツキが使った後の樹洞を、自分で樹洞を掘ることができないシジュウカラなどの小鳥類やフクロウ、コウモリ類、ヒメネズミなどが子育てをするための巣として、またねぐらとして利用します。このように、キツツキは多くの生きものにすみかを提供し、森の生態系という石橋を維持するための要石の役割を果たしています。

